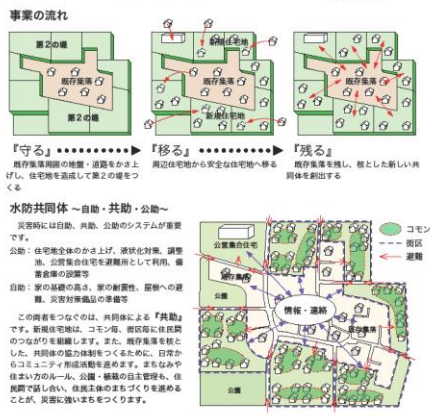
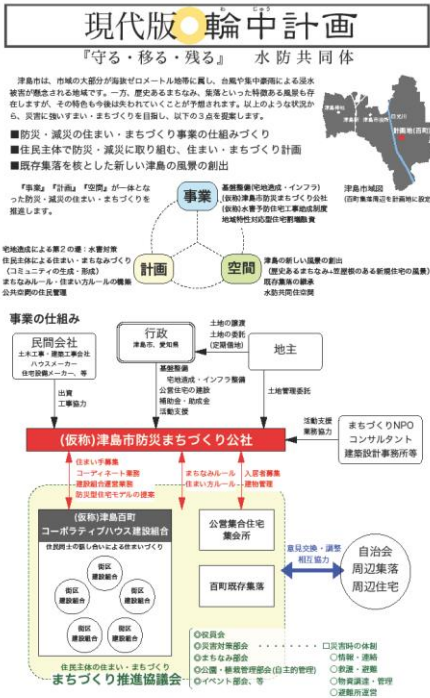


# 現代版〇輪中計画

## 「守る・移る・残る」水防共同体





#### 【事業の仕組みづくり】

行政、民間の協力により、(仮称)津島市防災まちづくり公社を設立し、地元まちづくりNPOや、建築士等地域のちからを結集した、事業推進の仕組みをつくる。

#### 【住民主体の計画】

戸建てコーポラティブハウス建設組合、まちづくり推進協議会を設立し、住民主体の話し合いによる住まい・まちづくりを進める。

#### 【新しい風景の創出】

歴史ある既存集落を核に、笠屋根のある新しい住宅とで構成される水防共同体が田園地帯に点在し、水脈で結ばれる新しい津島の風景をつくる。(本間充一)

#### 【審査委員講評】

##### 難波和彦審査委員長

既存集落を取り囲むように、地盤を持ち上げた新しい住宅地を配置し、既存集落を洪水から守ろうとする計画を、民間と行政の一体的な事業計画として立ち上げようとするソフトな提案である。コーポラティブ計画の経験を活用したユニークな提案だが、魅力的な景観の形成にまで到達していない点が惜まれる。

##### 朝岡市郎審査委員

行政と住民が一体となった防災に強いまちづくりが提案されている。既存集落と新規住宅との融合についても配慮され、災害時の行政、住民の災害への態勢などにも提案がなされている。水害の避難場所として公営住宅が提案も唯一である。

##### 生田京子審査委員

既存集落のまわりを取り囲む形に、土盛りした戸建て住宅地を開発することで、既存集落と新住宅地の双方の浸水時の逃げ場を確保しつつ豊かなCOMMONスペースを生み出そうとする計画で、その大胆な発想に驚かされます。

##### 川崎浩司審査委員

事業・空間・計画の三位一体のまちづくりを目的に、津島市防災まちづくり公社(仮称)の設立を提案し、今後の地域コミュニティの形成に一石を投じている点に独創性が認められる。

##### 清水裕之審査委員

社会システムとして防災・減災住宅を提案している点は非常に高く評価したい。しかし、新しく土盛りをして構築する輪中部分と旧集落との新旧住民の関係性を提案しきれていなかった。また、輪中部分のエッジが田園と集落との際として、重要なランドスケープの要素になるはずであり、新しいビオトープデザインとして構築できるはずであるが、その提案

が無かったのが残念である。

#### **日比一昭審査委員**

海拔ゼロメートル地帯の既存集落を、かさ上げされた新規住宅地で取り囲むことにより第2の堤としての機能を与えるとともに、新たな水防共同体に進化させるという提案は興味深い。さらには事業の仕組みの提案まで踏み込んでいる。しかしながら、既存集落を現状のまま、宅盤の高い高密度な新しい住宅地で取り囲むことへの抵抗感もあり、実現への難しさも感じた。